

まちの話題

25年に一度の大祭

9月29日、30日、千代田町崎村の冠者神社で25年に一度の式年大祭が行われました。

獅子舞や県内でも珍しい「女浮立(天衝舞)」を奉納し、五穀豊穡を願いました。

今回は、鎌倉時代に建築された同神社の開設775年を祝う祭りとして行われました。この大祭を一目見ようと地域住民をはじめ県内外から多くの見物客が訪れました。

地区では保存会(崎村獅子保存会、小森田女浮立保存会)をつくって伝統芸能を守り、25年に一度の奉納に備えてきました。29日は、崎村の冠者神社で、獅子舞(男衆45人)、浮立(天衝舞女性120人)が奉納された



後、御神幸行列(先導をはじめ、獅子、神楽、稚児、浮立、神輿など300人)による小森田冠者神社までお下りがありました。お下りの途中の神輿をくぐる縁起が良いということで、神輿をくぐる見物客が見られました。

小森田冠者神社に到着後、獅子舞、浮立が奉納され、夕方からは同神社境内に設置された舞台で、地区住民による余興が行われ、大いに賑わいました。

30日は、小森田冠者神社で、獅子舞、浮立奉納の後、御神幸行列により崎村の冠者神社までのお上りがありました。同神社に到着後、獅子舞、浮立が奉納され、夕方からは神社境内に設



置された舞台で、地区住民による余興が行われ、25年に一度の大祭は終了しました。

みやき町の老夫婦は、「娘が崎村に嫁いでいて、生きているうちに一度は見たかった。見に来てよかった。」と笑顔で話されていました。

それぞれの保存会では、「次世代を担う子どもたちも体験できたとと思う。親から子へと今後も伝承したい」(崎村獅子舞保存会)、「25年に一度の大祭に参加できて嬉しかった。今後も親から子、子から孫へと途切れないように地区民上げて伝承していきたい」(小森田女浮立保存会)と次回の大祭に向け、気持ちを新たにされていました。

幽玄の世界を体感

9月27日、子どもたちに古典芸能・伝統芸能を知ってもらおうと「子ども能楽教室」(神崎市教育委員会主催)が市内の中学生約千人を対象に神崎市中央公民館と神崎市千代田文化会館「はんぎーホール」で行われました。

能・狂言が約600年以上前の室町時代に始まったことや演奏される楽器や能楽師の舞についての解説に熱心に耳を傾けました。目の前で繰り広げられる能・

狂言の「幽玄の世界」に興味を持った様子で、狂言の「盆山」能の「羽衣」に見入っていました。



子ども狂言 2年ぶり

10月12日、高志神社(千代田町高志)の秋祭りでも高志狂言が奉納されました。

今年も、高志狂言保存会が「太刀奪」、2年ぶりに千代田中部小学校狂言クラブが「部須(附子)」を奉納しました。

高志狂言は、この地区に約200年以上にわたり受け継がれている伝統芸能で、県の重要無形民俗文化財に指定されており、毎年10月12日に奉納されています。



スポーツの秋！ 神埼と千代田で体育大会

10月7日、神埼中央公園グラウンドで神埼町民体育大会、千代田中学校グラウンドで千代田町民体育大会が行われました。子どもから高齢者まで、各地区から多くの参加者があり、元気いっっぱいの声援やかけ声が雨雲を吹き飛ばし、大いに盛り上がりました。

白熱した競技の結果は次のとおりです。



▲借り物競争（神埼）



▲みんなでジャンプ（神埼）



▲孫と一緒に（千代田）



▲2人3脚リレー（千代田）

○神埼町民体育大会

・総合

優勝 犬の目

準優勝 的

第3位 横武

・ミニ集落（70戸未満）の部

優勝 神納

準優勝 柏原

第3位 川寄

○千代田町民体育大会

・総合

優勝 柳島

準優勝 下直鳥

第3位 崎村

全国大会優勝など活躍した神埼市の選手に贈られるスポーツ優秀賞の個人の部の表彰式が、それぞれの体育大会で行われました。



湖人生誕祭

10月3日、千代田町出身の作家・教育者である下村湖人の生誕123年祭（下村湖人生家保存会主催）が下村湖人生家などで行われました。



千代田支部の裏千家の皆さん、千代田東部小学校茶道部によるお茶会が行われました。

○次郎物語読書感想文コンクール（敬称略）

〈最優秀賞〉

・宮地 愛美（千代田東部小）

・江頭健太郎（千代田中部小）

・眞崎 優佳（千代田西部小）

・濱田 光帆（神埼中）

・山口 美咲（千代田中）

〈優秀賞〉

・内川 香織（千代田東部小）

・川原 龍太（千代田中部小）

・松原みなみ（千代田西部小）

・中島佳代子（神埼中）

・秋吉 翔耶（千代田中）

○次郎の家スケッチ大会

〈最優秀賞〉

・千住 杏菜（千代田中）

〈優秀賞〉

・久富 友季（千代田東部小）

・稲田美由紀（一般）

《お詫びと訂正》

10月号7ページ掲載、スポーツ優秀賞受賞者（個人）の中で誤りがありました。

お詫びし訂正します。

（誤）内川聖也↓（正）内川聖弥

（誤）田原文嗣↓（正）田原文嗣

生家で行われた記念式典では、市内の小中学生ら約160人が出席し、次郎物語感想文コンクール、6月に行われた次郎の家スケッチ大会の入賞者の表彰式、子どもたちや保護者などによる感想文の発表が行われました。

夜には、千代田文化会館「はらんぎーホール」で津軽三味線・尺八の音楽会、神崎市文化連盟

肝がん撲滅へ向け

9月29日、神崎市中央公民館で市民公開講座「肝がんにならないうために」（神崎市郡医師会・佐賀県主催、神崎市・吉野ヶ里町共催）が行われ、約500人が参加しました。

4人の肝臓専門医からは、

「日本の肝がん年間死亡者3万5千人〜4万人のうち90%は、C型かB型の肝炎ウイルスに感染。肝がんをなくすには肝炎ウイルスに感染している人を見つけ、がんになる

全国スポレク祭で第3位

9月22日から25日、第20回国スポレクリエーション祭が青森県つがる市などで行われました。

マスターズ陸上佐賀県代表で出場した江頭正文さん（千代田町）が、男子50歳以上800メートルで第3位の成績を収められました。



前に治療をすることが必要。最も有効なのはインターフェロン療法であり、肝臓専門医との連携も大切」との話がありました。参加者からは、「ウイルス検査を周囲の人にすすめたい」「最新情報が分かりやすく大変参考になった」などの声がか聞かれました。

神崎市最高齢者

深堀さんらに長寿祝金

9月18日から19日、本年度100歳以上（22人）・88歳（157人）・80歳（314人）を迎える方々に神崎市より長寿祝金を贈りました。

106歳（明治34年生）の神崎市最高齢者の深堀久千代さん（千代田町）をはじめ、100歳以上の方には、市長が直接訪問し長寿を祝いました。

各地区では、4月から12月の間に長寿をお祝いするための敬老会行事が開催されています。



▶左よりの番目、最高齢者の深堀さん

長生きと元気を応援

9月18日、「敬老の日」のお祝いに神崎市商工会女性部（田中美智子部長）の17人が、特別養護老人ホーム「こすもす苑」（千代田町）を訪問し、歌や踊り、花をプレゼントしました。

入所者やデイサービス利用者約50人は、「りんごの歌」「故郷」などの歌、踊りやゲームなどを女性部のメンバーと楽しみ、生き生きとした表情で過ごし、終始和やかな雰囲気でした。



「美しい花を眺めて楽しく暮らしてもらいたい」とみどりの基金助成事業を活用し、高齢者一人ひとりにミリオンスターやカランディーバの花苗をプレゼント。施設入口付近には、ペチュニアの苗を一緒に植えました。

子どもの食育教室

8月24日、「子どものためのよい食育教室『親子料理教室』」（神崎市食生活改善推進協議会千代田支部主催・神崎市共催）が千代田町保健センターで行われました。

3歳から小学4年生までの子どもたちと母親や祖母の50人は、食生活改善推進員によるエプロンシアターや保健師による講話で身体の健康についての学習、栄養士・食生活改善推進員の指導による調理実習を行いました。



みんなでテーブルを囲み、自分たちで作った料理を好き嫌いすることなくおいしく食べていました。

天狗さん祭り

9月9日、千代田町嘉納地区では、江戸時代から続く天狗さん祭り（しえーとり祭り）が行われました。



朝、地区の子どもと大人が有明海の海水が汐入れする城原川まで、天狗面2面を棒の先に掲げて担いで行き、サカキにつけた汐水を天狗面にかけて清めました。

この祭りは、有明海の淡水の恩恵を受ける行事で、天狗面を清めることで、天地大自然の力を招き、天狗がこの力を先導して、部落の神社に迎え入れる天災除けの祈願祭とされています。県内では、4ヶ所で伝承される数少ない祭りです。嘉納地区では、旧暦の8月12日に近い日曜日に行われています。

観月会で住民交流

9月24日の夜、光明寺（神埼町尾崎西分）の駐車場で、地区住民の交流のために観月会が行われました。

この会は、地区と光明寺の共同で開催され、地区内の子どもから大人まで約100人が参加しました。

名月を見ながら琴や三線、横笛で奏でられる童謡や歌謡曲など和楽の演奏を楽しみ、より一層交流が深まりました。



良質米実り 「抜き穂式」



10月5日、神埼市良質米生産対策協議会により指定されたモデルほ場（千代田町高志）で、「抜き穂式」が行われました。

古賀安行さん夫妻が県の特別栽培農産物の基準に基づき栽培管理された稲は、神事後、古賀さんから代表者が石包丁で抜き穂を行った後、鎌などで刈り取られました。

収穫された米は、11月に皇居で行われる新嘗祭の献上米として、10月26日、献穀されました。

脊振小・中 稲刈り体験

10月11日、脊振小学校（5年生19人）、中学校（1年生19人）合同での稲刈りが行われました。

「さがのオンリーワンの活動」として、JAさが脊振支所の皆さんなどの協力により種から苗を育て、田植えをし、小さな苗の成長を感じながら稲刈りをしました。稲を刈り取った後の落穂ひろいまで行い、食物の大切さなど多くのことを学びました。初めて稲刈りを体験する子どもも多く、慣れない鎌を一生懸命使っていました。



収穫した米は、2月の親子料理教室や立志式の時に使われます。

「南のムラ」オープン

10月13日、吉野ヶ里歴史公園「南のムラ」がオープンしました。式典には、国や県、神埼市、吉野ヶ里町などの関係者らが参加しました。また、テープカットやクス玉割りには、貫頭着姿の仁比山保育園、吉野ヶ里保育園の園児らも参加しました。



「南のムラ」では、弥生時代の生活がこれまで以上に再現され、さまざまな生活シーンを体験できます。

初日には赤米のおかゆも振る舞われ、訪れた人たちは、弥生の生活を味わいました。

また、地元婦人会の歌や踊りや地元中学生の布織り体験なども行われました。

地域での取り組み

「地区でできることは地区で」を合言葉に地区住民でつくる「猪面」児童公園保存の会（新井豊会長）が、地域内での安全を守るため、地区への入口とJR高架下南北に立看板を設置（写真）されています。



また、保存会では、地域交流や子どもに郷土の素晴らしさを伝えたいと県の森の博地域活性化事業を活用し、水と緑をテーマに手作りで児童公園も整備されています。



▲児童公園「学びの園」

約200平方メートルの広さの中に、日の隈山や水路の水を引き込んだ城原川、杉と竹を材料にした民家などを、手作りで再現。また、JR長崎線を走る電車をペットボトルで模型化。

交通安全を願って

9月20日、神崎市老人クラブ連合会神崎支部女性部（香月薫部長）などが、秋の交通安全県民運動にあわせて、運転者に交通安全を呼びかけました。

呼びかけでは、部員が、それぞれの家で製作し、榑田宮（神埼町）で祈願された、約300個の手作り交通安全マスコットを配布。交通安全を願いました。



高齢者の事故防止を

10月2日から18日まで、シルバリーリーダー養成研修会が神崎市役所などで行われました。

この研修会は、地区の老人クラブに一人、交通安全に関するリーダーを養成し、リーダーを中心として高齢者の交通安全意識を高揚、高齢者の事故防止を図るものです。

受講者は、南佐賀自動車学校での体験型講習にも参加。走行中の大型車に近付くことの危険性・運転者が横断に気付き、停止するまでの時間・自動車と衝突した際の衝撃・暗闇で認識されやすい服装などについて学びました。



▲内輪差、外輪差について学ぶ受講生ら

パスポート受付開始

10月1日から神崎市役所市民課窓口でパスポート申請受付が始まりました。

受付第1号は、田原正健さん（千代田町）。「今回のパスポートが5冊目。世界2周目を目指して、10年間元気に旅行したい。」と新しいパスポートが待ち遠しい様子でした。

パスポートは、申請から発行まで県の旅券センターと同じく約8日かかります。

詳しくは、神崎市役所市民課（☎37-0116）まで。



広松伝賞を受賞

7月21、22日、環境保護団体などが川に関する活動を報告する「第10回川の日ワークショップ」が東京都で行われ、佐藤悦子さん（城原川を考える会代表）が広松伝賞を受賞されました。

この賞は、環境悪化が進んでいた水郷・柳川の浄化運動に取り組んだ故広松伝さんにちなむ賞で、佐藤さんは今春、『ふるさとの川 城原川―ダムに拠らない治水を探る―』の出版、ワークショップでの城原川が抱える

課題や魅力を伝えられたことが認められました。

また、「城原川を考える会」も「流域治水文化を世界遺産にしま賞」を受賞されています。

